

# 西海ブロック水産業情報

NO. 70 (平成22年7月～9月)

## 増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>・キジハタ種苗生産・放流 7月中旬から30kl水槽を使用し種苗生産試験を開始した。8月下旬に平均全長27.3mmの稚魚50,163尾を取り上げた。50mmサイズまで中間育成後、10月上旬までに県内各地に約34,000尾を標識放流した。</p>	<p>●豊前海 カキ養殖は、成長、身入りが遅れ気味、斃死は例年に比べ少ない。 ●豊前海 青壮年部主体の抱卵ガザミ放流(買上&amp;再放流)は、4,800匹程度を実施。 ●有明海 (増殖)・有明海漁業振興技術開発事業において、クルマエビ、ガザミ放流を実施。クルマエビは8月7日～27日に50mmサイズ、70万尾を福岡県地先で放流。ガザミは7月8日～8月16日にかけて42万尾(C3換算)を放流。(ノリ養殖)・糸状体の培養は概ね順調に経過。採苗は10月23日に決定。</p>	<p>●玄海 ・シンクロトン光によるケンサキイカ平衡石の分析 ●有明 「研究の動向」【水産資源関係】 ・タイラギ調査、漁獲物動向調査(市場調査)を実施。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・浅海定線調査、漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生息環境調査(水質)、貝毒分析(サルボウ) 【水産増養殖関係】 ・タイラギ干潟移植試験、放流アゲマキ追跡調査、クルマエビ放流(体長30mm 100.2万尾)、ガザミ放流(C5(20mm) 24.2万尾)、アサリ・サルボウ生息量調査 ・養殖マガキの付着密度比較試験 ・沖合域におけるモガイ殻 散布耕耘試験 「水産業の動向」【水産資源関係】 ・ガザミは7～8月は、昨年より漁獲量が少なく、ここ数年で最も少なかった。9月になり、やや回復したものの、小型個体が多く漁獲されている。 ・クルマエビは、7月は昨年並みの漁獲であったが、8～9月は昨年より漁獲が多かった。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・7～9月の水温は、いずれの月も平年より高めで推移した。 ・7～9月の比重は、8月が平年より低め、7、9月が平年よりやや高めであった。 ・7月上旬から8月上旬にシャトネラ赤潮が発生したが、魚介類の斃死は、確認されなかった。 【水産増養殖関係】 ・有明海湾奥部は、7月中旬から8月下旬にかけて断続的に貧酸素化したため、サルボウ漁場のほぼ全域で貧酸素によると思われる斃死を確認した。斃死状況は、全体的には、岸寄りの浅い漁場で斃死率は低く、沖側の寄り深い漁場で斃死率が高い傾向となっていた。 ・大浦地先で行っているマガキ養殖については、高水温によると思われる大量斃死が9月中旬から下旬にかけて発生し、対前年比で2割程度の生残状況となっている。</p>	<p>●標識放流 ・トラフグ(全長7cm、55万尾、有明海)、ガザミ(全長1～2cm、34万尾、有明海) ●放流魚追跡調査 ・トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、アワビ他について追跡調査を実施 ●中間育成試験 ・ホシガレイ、ガザミについて実施 ●種苗生産 ・アカアマダイ:7月15～17日に人工生産親魚3歳から32千粒の浮上卵を得て、14千尾のふ化仔魚を飼育中。 ・カワハギ:5月下旬に天然親魚から採卵し、種苗生産試験を実施し、7月13日に全長30mmの稚魚14700尾を生産した。 ・クエ:5月下旬に養成親魚からホルモン処理で採卵し、種苗生産試験を実施し、7月下旬に全長20～25mmの稚魚31万尾を取上げた。 ・クロマグロ:6月中旬に奄美栽培漁業センターから譲渡された受精卵を用いて種苗生産試験を開始し、7月21日に全長57mmの稚魚2137尾を取上げた。 ・タイラギ:種苗生産試験を実施し、着底稚貝3個を生産した。 ・マガキ(シングルシード):種苗生産試験を行い、試験養殖を実施中。</p>	<p>9月21日PAVが発生した。発生サイズ体重18.5g 被害尾数約8000尾。周辺池への被害の拡大は確認されていない。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・6月下旬に八代海で、シャトネラアンティーカによる赤潮が発生。6月30日に赤潮注意報、7月2日に赤潮警報を発令。8月2日に警報を解除した。養殖ブリなど約170万尾が斃死し、約37億円の被害が発生した。 ・サバヒーの種苗生産試験を実施。今年度は10万尾を生産した。</p>	<p>・カサゴ稚魚を毎年標識放流している川南町地先(県央・転石帯)での夏期盛漁期の試験操業結果:全漁獲尾数553尾中、標識魚数35尾。混獲率6.3%。 ・カワハギ種苗生産試験:6月22～24日にかけて、親魚60尾から55万粒の受精卵を回収、35トンコンクリート水槽に收容し、種苗生産を開始。ふ化率40.1%。7月29日7,137尾取り上げ、平均全長21mm。8日齢までに8割減少し、ふ化仔魚からの生残率は3.2%。初期餌料のSS型ワムシの活力、水質の悪化が原因か。</p>	<p>・別府湾以南における7月～9月の赤潮発生状況は、以下のとおりであった。 Heterosigma akashiwo による赤潮が5件(佐伯湾浅海井漁港他、名護屋湾奥、臼杵湾佐賀関漁港、米水津湾浦代浦、入津湾州の本)発生した。 Karenia mikimotoi による赤潮は、2件(臼杵湾下の江、入津湾)発生し、入津湾で漁業被害があった。 Cochlodinium polykrikoides による赤潮が猪串湾で5月17日から発生し、7月12日に終息した(漁業被害有り)。 その他Mesodinium rubrum による赤潮が2件、Prorocentrum dentatum による赤潮が2件発生した。</p>	<p>特になし</p>